

教養科目（平成28年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格(教職)	摘要	
基礎力養成	60010	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	沼山 博			
		〃					安部 貴洋			
		〃					大益 史弘			
		〃					加藤 守匡			
		〃					金光 秀子			
		〃					山口 光枝			
		〃					江口 智美			
		〃					金谷 由希			
		60020	キャリアデザイン	①	8	1	前期	西村 恵美子		
	基盤教育群	60110	山形の食と健康	1	8	1	前期	上野 和子		
60120		山形の歴史と文化	1	8	1	後期	青木 昭博			
60210		英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
		英語Ⅱ	①	15	2	前期	阿部 隆夫			
60230		英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ｼﾞｬﾘｰ・ﾐﾗｰ	○		
		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ｼﾞｬﾘｰ・ﾐﾗｰ	○		
60310		情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太			
60320		基礎情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○		
		応用情報処理演習	1	15	2	前期	伊豆田義人	○		
60410		体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○		
60420	体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①			
	体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	60510	心理学	②	15	1	後期	沼山 博			
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			
	60530	社会学	2	15	1・2・3・4	前期	阿部 晃士			
	60540	教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
	60550	法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		
	60560	企業論	2	15	1・2・3・4	後期	松下 幸生			
		異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
		国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			
	60610	生命科学	②	15	1	前期	高橋 和昭			
	60620	自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘			
60630	自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	鈴木 一憲				
60640	自然科学演習	1	15	1	前期	大益 史弘				
60650	統計学	2	15	1	後期	鈴木 久美				

※ ○数字は必修単位 } ○は選択必修科目

教養科目（平成27年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格(教職)	摘要
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	沼山 博		
		〃					金光 秀子		
		〃					安部 貴洋		
		〃					加藤 守匡		
		〃					大益 史弘		
		〃					山口 光枝		
		〃					金谷 由希		
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	嶋崎 伸一		
	地域学	山形の食と健康	1	8	1	前期	上野 和子		
		山形の歴史と文化	1		後期	青木 昭博			
外国語	60220	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫		
		英語Ⅱ	①	15	2	前期	阿部 隆夫		
	60240	英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジエリ・ミラー	○	
		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジエリ・ミラー	○	
情報処理	60330	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太		
		基礎情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○	
		応用情報処理演習	1	15	2	前期	伊豆田義人	○	
保健体育	60430	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○	①
		体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡		
		体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡		
教養教育群	人間と文化・社会	60520 心理学	②	15	1	後期	沼山 博		
		60520 コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博		
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	阿部 晃士		
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋		
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○	
		60560	企業論	2	15	1・2・3・4	後期	松下 幸生	
			異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子	
		国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学		
	人間と自然	60620	生命科学	②	15	1	前期	高橋 和昭	
			自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘	
自然科学Ⅱ（生物学）			2	15	1・2	前期	鈴木 一憲		
自然科学演習			1	15	1	前期	大益 史弘		
統計学			2	15	1	後期	安田 宗樹		

※ ○数字は必修単位 } ○は選択必修科目

教養科目（平成26年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格(教職)	摘要
基礎教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	沼山 博		
		〃					金光 秀子		
		〃					安部 貴洋		
		〃					加藤 守匡		
		〃					大益 史弘		
		〃					山口 光枝		
		〃					金谷 由希		
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	嶋崎 伸一		
	地域学	山形の食と健康	1	8	1	前期	上野 和子		
		山形の歴史と文化	1	8	1	後期	青木 昭博		
外国語	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
	英語Ⅱ	①	15	2	前期	阿部 隆夫			
	英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジェリー・ミラー	○		
	英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジェリー・ミラー	○		
情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太			
	基礎情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○		
	応用情報処理演習	1	15	2	前期	伊豆田義人	○		
保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○		
	体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①		
	体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡			
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博		
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博		
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	阿部 晃士		
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋		
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○	
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	松下 幸生		
	60570 異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
	60580 国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			
人間と自然	生命科学	②	15	1	前期	高橋 和昭			
	自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘			
	自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘			
	自然科学演習	1	15	1	前期	大益 史弘			
	統計学	2	15	1	後期	鈴木 久美			

※ ○数字は必修単位 } ○は選択必修科目

科目区分： 基盤教育群 基礎力養成

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60010	基礎ゼミナール	1	沼山 博 安部貴洋 大益史弘 加藤守匡 金光秀子 山口光枝 江口智美 金谷由希	必修	1	前期	講義
授業目的	学生同士・教員の交流を深め、学生の自覚と学習意欲を高める。少人数クラスによるゼミ形式とし、ノートの取り方、レポートの書き方、図書館の使い方、文献検索の方法等のスタディスキルを習得する。また、論理的思考や発表技法を学ぶためグループによる討論や発表を行い、コミュニケーション能力を身に付ける。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：リレーションづくり(1) 第3回：リレーションづくり(2) 第4回：大学の講義とノートテイキング 第5回：研究テーマ設定のための情報収集 第6回：研究テーマ設定のための情報収集 第7回：研究テーマに即した情報収集とレポート作成(1) 第8回：研究テーマに即した情報収集とレポート作成(2) 第9回：プレゼンテーション資料の作成(1) 第10回：コンセンサスと話し合い 第11回：ディベート体験 第12回：プレゼンテーション資料の作成(2) 第13回：プレゼンテーションの練習 第14・15回：プレゼンテーションと討論						
成績評価 方法	授業への取り組み 40%、レポート 30%、プレゼンテーション 30%						
教科書 参考文献	学習技術研究会編「知へのステップ第3版」(くろしお出版)						
履修の条件	特になし。						
備考	特になし。						

科目区分： 基盤教育群 基礎力養成

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60020	キャリアデザイン	1	西村 恵美子	必修	1	前期	講義
授業目的	<p>「キャリア」について考え、様々な人との係りの中で基本となるコミュニケーション能力等の形成を目指す。</p> <p>自己分析により自分自身を理解し、将来の自分像を見据えた能力形成に努め、職業選択と社会人としての活動計画と捉える。</p> <p>本講義では、具体的な職業像をイメージしながら、第一線で活躍する講師の助言のもと、「キャリア」を「デザイン」し、社会人として活躍できる人材育成と自己研鑽に努める。</p>						
授業計画	<p>第1回：イントロダクションー「キャリアデザイン」とは何か</p> <p>第2回：人間関係の形成ー「自己分析」と「他者理解」</p> <p>第3回：人間関係の形成ーグループワーク①</p> <p>第4回：多様な職業から「適職」を考える</p> <p>第5回：職業選択を考えるーグループワーク②</p> <p>第6回：ライフプランニングー「目標設定」と「行動計画」</p> <p>第7回：求められる人材ー「社会人としての適性」と「自己評価」</p> <p>第8回：自分にとっての「キャリアデザイン」ー発表とまとめ</p>						
成績評価 方法	レポート 70%、受講態度評価 30%						
教科書 参考文献	毎回、授業概要（レジユメ）を配布する。						
履修の条件							
備考							

科目区分： 基盤教育群 地域学

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60110	山形の食 と健康	1	上野 和子	選択	1	前期	講義
授業目的	<p>・山形県は大きく4つの地域に分かれ、それぞれ特徴的な食文化が存在する。多彩で豊かな在来作物や伝統野菜、様々な行事に伴う郷土料理など、地域に根ざした食の文化を学ぶとともに、山形県の食生活の現状、並びに食育・地産地消推進についての理解も深める。また、農業体験を通し、農産物を食生活の中に多様に活用できる人材を育てる。</p> <p>・多彩なゲストスピーカーにより、特に鷹山公の「かてもの」や地産地消の取り組みを紹介し、先人の知恵を学ぶ。</p>						
授業計画	<p>第1回：山形県の食の現状と食育・地産地消推進の取り組みについて 第2回：特色のある山形県の食材と料理 ～置賜・村山地方の農水産物を中心に～ 第3回：農業体験学習 農産物の栽培を体験 第4回：ゲストスピーカーによる講話 ～上杉鷹山公と「かてもの」について～ 第5回：特色のある農水産物 ～最上・庄内地域を中心に～ 第6回：他県の郷土料理や農水産物について意見交換 ～その違いや共通点をレポートにまとめる～ 第7回：ゲストスピーカーによる講話 ～地域の地産地消の様々な取り組み～ 第8回：農業体験学習 収穫をとおり食物の働きと健康を学ぶ</p>						
成績評価 方 法	<p>テスト 30%、 レポート 60%、 体験学習への積極的な参加及び意見交換での発言等授業への取り組みについて 10%</p>						
教科書 参考文献	<p>教科書は特になし 講師の準備する資料による 参考文献・「かてものを」たずねる 高垣順子著 ・山形県 農と食検定テキスト ・その他山形県の郷土料理等</p>						
履修の条件							
備 考							

科目区分： 基盤教育群 地域学

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60120	山形の歴史と 文化	1	青木 昭博	選択	1	後期	講義
授業目的	4年間学習し生活する場（地域）である山形県および米沢市の歴史と文化について、その概要を画像や資料などから学び、地域の特色を理解すると共に、地域に対する興味や愛着心を深める。						
授業計画	<p>第1回：山形の自然と風土 （きてけろくん・校歌県民歌・庄内と内陸）</p> <p>第2回：原始・古代の山形 （縄文の女神・彩文土器・山形の古墳）</p> <p>第3回：山形の中世と戦国時代 （山形の荘園・山形の仏像・最上義光と伊達政宗）</p> <p>第4回：山形の近世の諸相 （最上川と紅花・出羽三山・奥の細道）</p> <p>第5回：直江兼続と城下町米沢 （城下町米沢の構造と特色・街並みの推移）</p> <p>第6回：上杉鷹山と米沢藩の改革 （なせば成る・漆の実のみのもる国・伝国の詞）</p> <p>第7回：山形県の成立と近代山形 （土木県令・東洋のアルカディア）</p> <p>第8回：現代山形の姿と課題・未来 （「はえぬき」と「つや姫」・山形新幹線）</p>						
成績評価 方法	レポート 40%、態度 60%（毎回提出してもらう講義に対する質問・感想用紙の内容）						
教科書 参考文献	教科書はなし。各回資料配布。 『山形県の歴史散歩』（山川出版社） 『山形県謎解き散歩』（新人物往来社文庫） 『代表的日本人』（岩波文庫）						
履修の条件							
備考							

科目区分： 基盤教育群 外国語

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60210	英語 I	1	阿部 隆夫	必修	1	前期	講義
授業目的	<p>三個の主題に沿って進める。第一は、自然科学関係の英語の文章を効率的に読みこなす練習をすることである。第二は、英語圏を中心に異文化に関する資料を読みながら語彙を増やすことである。第三には、今後日本で起こりうる異文化間の交流に必要なコミュニケーション技術を習うことである。特に英語の社会言語文化を題材にしながら、聞く・話す・読む・書くという基本四技能を統括する五番目の技能である異文化間コミュニケーション能力を養う。</p>						
授業計画	<p>第1回：SN Unit 1, 異文化 Case 1 自己紹介            第2回：SN Unit 2, 異文化 Case 2 自身の呼称            第3回：SN Unit 3, 異文化 Case 3 知らない人と話すA            第4回：SN Unit 4, 異文化 Case 4 知らない人と話すB            第5回：SN Unit 5, 異文化 Case 5 挨拶            第6回：SN Unit 6, 異文化 Case 6 スピーチ            第7回：SN Unit 7, 異文化 Case 7 パーティ出席            第8回：SN Unit 8, 異文化 Case 8 勧める            第9回：SN Unit 9, 異文化 Case 9 お礼            第10回：SN Unit 10, 異文化 Case 10 贈り物            第11回：SN Unit 11, 異文化 Case 11 断る            第12回：SN Unit 12, 異文化 Case 12 電話            第13回：SN Unit 13, 異文化 Case 13 招待される            第14回：SN Unit 14, 異文化 Case 14 招待する            第15回：SN Unit 15, 異文化 Case 15 以心伝心</p>						
成績評価 方法	<p>テスト 70%、提出課題 15%、復習音読 15%</p>						
教科書 参考文献	<p>Peter Vincent 他著 <i>Simply Nutrition</i> (南雲堂 2014 年) [上記 SN と略記]、タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社 2012 年）[「異文化」と略記]</p>						
履修の条件							
備考							



科目区分： 基盤教育群 外国語

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60220	英語Ⅱ	1	阿部 隆夫	必修	2	前期	講義
授業目的	<p>三個の主題に沿って進める。第一は、自然科学関係の英語の文章を効率的に読みこなす練習をすることである。第二は、英語圏を中心に異文化に関する資料を読みながら語彙を増やすことである。第三には、今後日本で起こりうる異文化間の交流に必要なコミュニケーション技術を習うことである。特に英語の社会言語文化を題材にしながら、聞く・話す・読む・書くという基本四技能を統括する5番目の技能である異文化間コミュニケーション能力を養う。</p>						
授業計画	<p>第1回：BH Unit 1, 異文化 Case 15            第2回：BH Unit 2, TOEIC Questions 1-10            第3回：BH Unit 3, 異文化 Case 16            第4回：BH Unit 4, TOEIC Questions 11-20            第5回：BH Unit 5, 異文化 Case 17            第6回：BH Unit 6, TOEIC Questions 21-30            第7回：BH Review, 異文化 Case 18            第8回：BH Unit 7, TOEIC Questions 31-40            第9回：BH Unit 8, 異文化 Case 19            第10回：BH Unit 9, TOEIC Questions 41-50            第11回：BH Unit 10, 異文化 Case 20            第12回：BH Unit 11, TOEIC Questions 51-60            第13回：BH Unit 12, 異文化 Case 21            第14回：BH Unit 13, TOEIC Questions 61-70            第15回：BH Review, 異文化 Case 22</p>						
成績評価 方法	<p>テスト 70%、提出課題 15%、復習音読 15%</p>						
教科書 参考文献	<p>Toshiaki Nishihara, <i>Better Health for Every Day</i> (金星堂 2014年)[上記 BH と略記]; タカオ・アベ『ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社 2012年) [「異文化」と略記]; TOEIC テスト新公式問題集 Vol. 5 (TOEIC と略記)</p>						
履修の条件							
備考							

科目区分：基盤教育群 外国語

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60230	英会話 I	1	ジェリー・ミラー	必修	1	後期	講義
授業目的	<p>この授業では、学生が実践的な英会話を身につけることを目標にしています。特に流暢に話せるようになることを目指しています。期末テストでは、学んだテーマの一つについて5分間英語で話してもらいます。毎週新しいテーマにより、そのテーマについての語彙や表現を勉強します。ペア又は4人のグループで会話練習をしますが、パートナーはしばしば入れ替えて行います。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション            第2回：自己紹介            第3回：家族            第4回：買い物            第5回：食べ物            第6回：音楽            第7回：レジャー            第8回：復習 1            第9回：旅            第10回：スポーツ            第11回：友達            第12回：アルバイト            第13回：映画            第14回：テクノロジー            第15回：復習 2</p>						
成績評価 方 法	<p>スピーキングテスト 1- 25% スピーキングテスト 2- 25%            課題- 25% 小テスト- 25%</p>						
教科書 参考文献	<p>Tom Kenney and Linda Woo, Nice Talking With You 1 (Cambridge)            2011.            英・英 辞書</p>						
履修の条件							
備 考							

科目区分：基盤教育群 外国語

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60240	英会話Ⅱ	1	ジェリー・ミラー	選択	2	後期	講義
授業目的	この授業では語彙を増やし、ディスカッション力と基本的なプレゼンテーションスキルを身につけます。テーマは健康や栄養です。栄養士になるための実践的な英語の基礎固めをします。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：健康な国 第3回：免疫機構 第4回：民族と健康 第5回：医学研究 第6回：プレゼンテーション1 第7回：癌 第8回：疾病 第9回：インスタント食品 第10回：ビタミンとミネラル 第11回：プレゼンテーション2 第12回：遺伝学 第13回：メンタルヘルス 第14回：中毒 第15回：プレゼンテーション3						
成績評価 方 法	参加態度- 20% プレゼンテーション- 60% 課題- 20%						
教科書 参考文献	Paul Stapleton, <i>Stay Healthy</i> , (Cengage Learning) 2009.						
履修の条件							
備 考							

科目区分： 基盤教育群 情報処理

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60310	情報基礎	2	小池 隆太	必修	1	前期	講義
授業目的	<p>本講義では、情報化社会に必要な情報処理技術の基礎知識を学び、情報システムの活用と情報の発信に求められる基本的な概念の習得をはかる。具体的には、デジタルデータとコンピュータの構造、情報システムとネットワーク、情報セキュリティ、メディアリテラシー、知的財産権・著作権の保護、個人情報の管理等について学ぶことで、技術的観点と制度的観点の双方から現代社会における情報システムの役割について理解する。</p>						
授業計画	<p>第1回：イントロダクション アナログとデジタル            第2回：情報の記号性と情報環境            第3回：コンピュータの歴史            第4回：コンピュータの構造            第5回：入出力インターフェースと記憶装置            第6回：アルゴリズムとプログラミング            第7回：インターネットの歴史と仕組み            第8回：マルチメディアとコンテンツ配信            第9回：情報システムとその実例            第10回：情報セキュリティ            第11回：個人情報の管理とメディアリテラシー            第12回：知的財産権と著作権保護            第13回：モバイル端末の歴史とユビキタスネットワーク社会            第14回：デジタル・デバイド            第15回：アクセシビリティと制度</p>						
成績評価 方法	<p>期末レポート 70%、課題（授業中に提出） 30%</p>						
教科書 参考文献	<p>資料プリントを適宜配布します。</p>						
履修の条件							
備考							

科目区分： 基盤教育群 情報処理

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60320	基礎情報処理 演習	1	伊豆田 義人	選択	1	後期	演習
授業目的	<p>本演習では、情報化社会に生きていくための必須の情報処理の基礎知識および必要不可欠な実践的な活用能力を身につける。情報活用の基礎知識として、情報システムの使い方やインターネットによる情報収集、メールシステムの利用のほか、ブランドタッチの基本や文章作成ソフト（ワード）、データ活用（表計算ソフト・エクセル）とプレゼンテーションソフト（パワーポイント）の活用方法を習得する。また、演習課題の解説の際には、情報システムやコンピュータネットワークを利用する上での倫理やマナー、セキュリティに加え、ソフトウェアやデジタルコンテンツの著作権法等の情報社会における基本的な事柄をも説明する。</p>						
授業計画	<p>第1回：学内情報システムの紹介と機器の使い方。個人Eメール等のネットワークシステムの設定等  第2回：ブランドタッチの基本的なスキル取得。キーボードのホームポジション、上・下段の練習  第3回：文書作成—その1。ソフトの基本操作やデータの入力と書式の設定、文字のみの文書の作成  第4回：文書作成—その2。図形文書の基本的な事項。図形文書作成と編集。パンフレットの作成  第5回：文書作成—その3。表の作成・編集。文中の表、および表としてのページ。表を用いた文書  第6回：文書作成—その4。本と論文の原型。見出しや図表式の目次や索引、脚注等を有する文書  第7回：文書作成—その5。ビジネス文書の基本的な事項。種々のビジネス文書の作成、編集、管理  第8回：データ活用—その1。ソフトの基本操作。データの入力、表の作成や編集、書式の設定  第9回：データ活用—その2。計算式の挿入。四則演算や合計、平均などの基本的な数式の使い方  第10回：データ活用—その3。情報の参照。表間やファイル間のデータのやり取りと参照と処理  第11回：データ活用—その4。集計。大量の数字データに対する一元的なデータの集計やクロス集計  第12回：データ活用—その5。グラフによる情報の可視化。グラフの作成、編集と書式の設定  第13回：プレゼンテーション。ソフトの基本的な操作やスライドの作成・編集・設定を学習  第14回：画像処理ソフトの基本。画像の加工、補正、編集、合成等について学習  第15回：総まとめ</p>						
成績評価 方法	テスト：50%、レポート：40%、授業態度：10%						
教科書 参考文献	指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。 その都度、授業内容に適した参考書を指定する。						
履修の条件							
備考							

科目区分： 基盤教育群 情報処理

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60330	応用情報処理演習	1	伊豆田 義人	選択	2	前期	演習
授業目的	<p>本演習では、実践的に統計学的な情報の処理方法を学習する。その意義は、私たちの周りにある情報（たとえば、健康・栄養・食品関連の現場における定量的な測定データ等。）は常に何らかの不確かさを含み、不確定なものなので、それらから客観的かつ適切な結論・判断を導き出すためには統計学の評価・解析方法が不可欠であるということである。</p> <p>授業は二部構成になっている。前半では、《仮設検定》について学習する。《仮設検定》とは、平たくいうと、複数のデータ群の間に「有意な差」があるか否かを見たい時に行う分析である。一方で、後半では、データ群の互いの関わり合いや、それらの振舞等の解釈に必要な《解析方法》を学ぶ。</p> <p>授業の形態としては、毎回、授業内容の背景にある統計学的な考え方を簡単に概説した後、パソコン上で excel ソフトを活用しながら演習の形で様々な課題を解く。</p> <p>なお、『基礎情報処理演習』の授業での「情報活用のスキル」と、この授業での「情報の客観的な解釈能力」を習得することにより、受講者は、情報主体の現代の社会で活躍する“プロフェッショナル”の絶対条件である「情報の処理・読み解く能力」を身に着ける。</p>						
授業計画	<p>第1回：データの整理（ヒストグラム）</p> <p>第2回：基本的な統計量</p> <p>第3回：仮説検定の基本。p値の計算</p> <p>第4回：検定1：F-検定（等分散の検定）。t-検定（平均値の検定）</p> <p>第5回：検定2：t-検定（平均値の検定）（続）</p> <p>第6回：検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）</p> <p>第7回：検定4：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）（続）</p> <p>第8回：検定5：<math>\chi^2</math>適合度検定（比率の検定）</p> <p>第9回：解析方法1：相関分析。回帰分析</p> <p>第10回：解析方法2：重回帰分析</p> <p>第11回：解析方法3：残差分析</p> <p>第12回：解析方法4：PCA分析（主成分分析）</p> <p>第13回：解析方法5：判別分析。時系列分析（移動平均含む）</p> <p>第14回：まとめの課題：栄養学のデータ分析法の例</p> <p>第15回：まとめの課題：栄養学のデータ分析法の例（続）</p>						
成績評価方法	テスト：50%、レポート：40%、授業態度：10%						
教科書 参考文献	<p>指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。</p> <p>その都度、授業内容に適した参考書を指定する。</p>						
履修の条件	『基礎情報処理演習』を受講済みであること、または「パソコンの操作ができ、かつエクセルソフトの操作経験を有すること」						
備考							

科目区分： 基盤教育群 保健体育

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60410	体育理論	1	加藤 守匡	必修	1	前期	講義
授業目的	日常生活の活動やスポーツが身体発育や身体機能の維持・増進に与える役割を理論的に学習する。そして、日常生活の活動やスポーツと体力・健康との関わりを学習し生涯に渡り活動的なライフスタイル構築の意義を学習する。						
授業計画	第1回：日常の身体活動量、運動不足について 第2回：体力の構成要素、体力評価の方法について 第3回：発育発達と体力について 第4回：加齢と体力について 第5回：健康と体力について 第6回：各種運動におけるエネルギー供給について 第7回：運動前の準備と確認事項について 第8回：運動トレーニングに適切な運動負荷について 第9回：健康増進のための取り組みについて 第10回：肥満、体重調節と運動について 第11回：疲労と体力について 第12回：軽運動及びストレッチングについて 第13回：運動とメンタルヘルスについて 第14回：学生生活と運動量、健康との関連について 第15回：生涯スポーツと健康について						
成績評価 方法	テスト 40%、レポート 40%、態度 20%						
教科書 参考文献	特になし。必要な資料は授業時に配布する。						
履修の条件							
備考							

科目区分： 基盤教育群 保健体育

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60420	体育実技 I	1	加藤 守匡	選択	1	後期	実習
授業目的	有酸素運動や筋力トレーニング、ストレッチングなどのフィットネストレーニングの技術を習得していく。講義期間を通して、自らの体調チェックや体力レベルを維持・増進したりできる手段を身につける。						
授業計画	<p>第1回：ストレッチングと有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第2回：ストレッチングと有酸素運動（個人毎に設定した速度でウォーキング）</p> <p>第3回：ストレッチングと有酸素運動（ウォーキングとジョギング）</p> <p>第4回：音楽に合わせた全身運動（動きの確認と低強度運動）</p> <p>第5回：音楽に合わせた全身運動（低強度運動と中強度運動）</p> <p>第6回：トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第7回：トレッドミル装置を用いた有酸素運動（個人毎に設定した速度でウォーキング）</p> <p>第8回：トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキングとジョギング）</p> <p>第9回：自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（運動負荷設定）</p> <p>第10回：自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（個人毎に設定した負荷で運動）</p> <p>第11回：器具を使った筋力トレーニング（負荷調整の習得）</p> <p>第12回：器具を使った筋力トレーニング（個人毎に設定し負荷で運動）</p> <p>第13回：バランスボールを用いた運動（個人で行う運動）</p> <p>第14回：バランスボールを用いた運動（グループで行う運動）</p> <p>第15回：自重負荷を用いた筋力トレーニング</p>						
成績評価 方法	レポート 50%、態度 50%						
教科書 参考文献	特になし。必要な資料は授業時に配布する。						
履修の条件							
備考							



科目区分： 基盤教育群 保健体育

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60430	体育実技Ⅱ	1	加藤 守匡	選択	2	前期	実習
授業目的	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツについて学習する。						
授業計画	第1回：インディアカ（種目の理解と練習及び試合） 第2回：インディアカ（複数のチームを作り試合） 第3回：ソフトバレーボール（種目の理解と練習及び試合） 第4回：ソフトバレーボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す） 第5回：ソフトバレーボール（複数のチームを作り試合） 第6回：ユニホック（種目の理解と練習及び試合） 第7回：ユニホック（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す） 第8回：ユニホック（複数のチームを作り試合） 第9回：バスケットボール（種目の理解と練習及び試合） 第10回：バスケットボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す） 第11回：バスケットボール（複数のチームを作り試合） 第12回：卓球（基本的技能の習得） 第13回：卓球（複数の対戦相手を設定し試合） 第14回：バドミントン（基本的技能の習得） 第15回：バドミントン（複数の対戦相手を設定し試合）						
成績評価 方法	レポート 50%、態度 50%						
教科書 参考文献	特になし。必要な資料は授業時に配布する。						
履修の条件							
備考							

科目区分： 教養教育群 人間と文化・社会

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60510	心理学	2	沼山 博	必修	1	後期	講義
授業目的	人間とかかわる際に必要な心理学的知識について概述する。まず人間の知覚や認知、学習の特徴や行動変容の技法について解説する。特に高齢者については詳しく取り上げる。また、人間とかかわる上で相手の人格をどうとらえるかがポイントの一つとなることから、パーソナリティの成り立ちや把握のしかた、ストレスの問題などについても取り上げる。						
授業計画	第1回：心理学とは 第2回：人間の知覚(1)：感覚 第3回：人間の知覚(2)：視覚 第4回：人間の知覚(3)：聴覚 第5回：人間の知覚(4)：味覚と嗅覚 第6回：人間の認知と学習(1)：記憶 第7回：人間の認知と学習(2)：学習 第8回：人間の認知と学習(3)：脳のしくみ 第9回：高齢者の認知(1)：視覚、聴覚 第10回：高齢者の認知(2)：嗅覚、味覚、触覚 第11回：行動変容の技法(1)：刺激統制 第12回：行動変容の技法(2)：心理療法を参考に 第13回：パーソナリティ 第14回：ストレスコーピングとソーシャルサポート 第15回：まとめ						
成績評価 方法	期末レポート 60%、授業への取り組み（小レポート等） 40%						
教科書 参考文献	教科書は使用せず、講義資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。						
履修の条件	特になし。						
備考	特になし。						

科目区分： 教養教育群 人間と文化・社会

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60520	コミュニケーション論	2	沼山 博	必修	2	前期	講義
授業目的	人間とかかわる際に必要なコミュニケーションに関する知識について、座学のみならず体験的に理解する。まず人間のコミュニケーションの特徴や傾向について概説する。そのうえで、ゲーミングシミュレーションやエンカウンターグループ等の手法を体験しながら、人間関係の構築、維持、発展のさせ方などを理解する。また、コンセンサス形成課題を通して、集団内で自らの意見や考えを発表し、集団としての意思決定も体験する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：人間のコミュニケーションの特徴や傾向（1） 第3回：人間のコミュニケーションの特徴や傾向（2） 第4回：人間のコミュニケーションの特長や傾向（3） 第5回：自分のコミュニケーションパターンを知る 第6回：相手のコミュニケーションパターンを知る 第7回：自分の意図や情報を相手に伝える（1） 第8回：自分の意図や情報を相手に伝える（2） 第9回：話し合いでコンセンサスを得る（1） 第10回：話し合いでコンセンサスを得る（2） 第11回：マイクロカウンセリングから学ぶ（1） 第12回：マイクロカウンセリングから学ぶ（2） 第13回：高齢者とかかわる（1） 第14回：高齢者とかかわる（2） 第15回：まとめ						
成績評価 方法	期末レポート 60%、授業への取り組み 40%						
教科書 参考文献	教科書は使用しない。講義で適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。						
履修の条件	特になし。						
備考	実際に人とかかわる場面があるので、その点に留意して履修すること。第13～14回については通常とは異なる時間帯等で実施する予定である。						

科目区分： 教養教育群 人間と文化・社会

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60530	社会学	2	阿部 晃士	選択	1・2 3・4	前期	講義
授業目的	個人（ミクロ）と社会（マクロ）のつながりに焦点をあてて社会現象のメカニズムを解明する、社会学にかんする入門的講義。社会学の基礎概念や理論について知るとともに、社会学の現代的テーマから現代社会の諸問題を知り、自らその解決策を考察するための基礎を学習する。						
授業計画	第1回：親密性と公共性-社会学とは 第2回：家族とライフコース(1) 第3回：家族とライフコース(2) 第4回：ジェンダーとセクシュアリティ(1) 第5回：ジェンダーとセクシュアリティ(2) 第6回：環境とリスク 第7回：空間と場所(1) 第8回：空間と場所(2) 第9回：格差・階層化と教育(1) 第10回：格差・階層化と教育(2) 第11回：文化と再生産 第12回：社会秩序と権力(1) 第13回：社会秩序と権力(2) 第14回：社会運動と社会構想(1) 第15回：社会運動と社会構想(2)						
成績評価 方法	授業中の小レポート（40％）と試験（60％）						
教科書 参考文献	教科書は使用せず、毎回資料を配布する。 参考文献： 長谷川公一ら，2007，『社会学』有斐閣。 松田健，2016，『テキスト現代社会学（第3版）』ミネルヴァ書房。						
履修の条件							
備考	隔週開講のため、開講日に注意すること。						

科目区分： 教養教育群 人間と文化・社会

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60540	教育学	2	安部 貴洋	選択	1・2 3・4	前期	講義
授業目的	<p>教育の基礎を学ぶことを目的とする。以下の点を到達目標とする。            ①教育の基礎的な内容を理解し、説明できる。            ②教育思想の歴史を理解し、現代との関連を説明できる。            ③教育制度、評価等の現代教育に関する事柄を知り、説明できる。            ④現代の教育問題に関して様々な考えを知り、自分の考えを発表できる。</p>						
授業計画	<p>第1回：授業概要の説明と授業計画 教育学とは何か            第2回：教育と子ども 教育の概念と子ども観の変遷            第3回：学校とは何か 近代学校の成立とその特徴            第4回：教育の思想と歴史① ソクラテス、プラトン、他            第5回：教育の思想と歴史② ヘルバルト、デューイ、他            第6回：教育の思想と歴史③ 日本における教育思想            第7回：学ぶということ 「学び」の歴史と現在            第8回：教育の制度 各国の教育制度と日本の教育制度            第9回：教育課程 カリキュラムの変遷と再定義            第10回：教育評価 学力評価の展開と新しい動向            第11回：特別支援教育 特別支援教育の歴史とその理念            第12回：現代教育の課題① いじめ、不登校、自殺等            第13回：現代教育の課題② 子ども虐待、体罰等            第14回：諸外国の実践 シュタイナーとレッジョ・エミリア            第15回：理解の確認と総括</p>						
成績評価 方法	試験 40%、レポート 40%、発表 20%						
教科書 参考文献	使用しない。適宜、授業資料を配布する。 授業時に適宜紹介する。						
履修の条件							
備考							

科目区分： 教養教育群 人間と文化・社会

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60550	法学 (日本国憲法)	2	堀田 学	選択	1・2 3・4	後期	講義
授業目的	<p>日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は、遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p>						
授業計画	<p>第1回：憲法の基礎            第2回：参政権            第3回：国会            第4回：内閣            第5回：裁判所            第6回：象徴天皇制            第7回：平和主義            第8回：人権総論1            第9回：人権総論2            第10回：信教の自由と政教分離            第11回：表現の自由            第12回：経済的自由            第13回：人身の自由            第14回：社会権            第15回：幸福追求権</p>						
成績評価 方法	<p>期末試験（100%）</p>						
教科書 参考文献	<p>駒村圭吾編『プレステップ憲法』弘文堂、2014年</p>						
履修の条件							
備考							

科目区分： 教養教育群 人間と文化・社会

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60560	企業論	2	松下 幸生	選択	1・2 3・4	後期	講義
授業目的	<p>中小企業に対する基本的な政策の重点は、1999年、従来の「格差是正」から「市場競争の苗床」と「イノベーションの担い手」に移行した。この移行に象徴されるとおり、わが国の中小企業は業種による濃淡こそあれ変化に対応することを一層求められている。企業論では中小企業の多様性と諸課題について、授業計画に記している複数の視点から把握をする。そのうえで、中小企業が発展するための方向性を明らかにする。</p>						
授業計画	<p>第1回：中小企業の定義と特徴            第2回：産業集積地域の形成過程と特質            第3回：製造業における技術革新の変遷            第4回：中小流通業の構造変化（主に小売業）            第5回：中小流通業者の展望（主に小売業）            第6回：製造業の構造変化            第7回：製造業の展望            第8回：中小企業の海外展開            第9回：海外展開の進展が地域経済に与える影響            第10回：中小企業ネットワークの変遷            第11回：インターネット連携と産学官連携            第12回：中小企業における人材育成            第13回：中小企業論における諸論議            第14回：中小企業政策の変遷            第15回：グローバル化時代の地域振興と中小企業</p>						
成績評価 方法	<p>レポート 85%、発言（講義中の質問、及び、回答） 15%</p>						
教科書 参考文献	<p>吉田敬一・井内尚樹編著[2010], 『地域振興と中小企業—持続可能な循環型地域づくり—』, ミネルヴァ書房.            吉田敬一・永山利和・森本隆男編著[1999], 『産業構造転換と中小企業』, ミネルヴァ書房.            上記以外の参考資料を適宜使用する。</p>						
履修の条件							
備考							

科目区分： 教養教育群 人間と文化・社会

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60570	異文化理解	2	村瀬 桃子	選択	3・4	前期	講義
授業目的	<p>この授業の目的は、自分と異なる文化を持つ人たちと比較するため、まず①各自の生まれた地域の文化について再確認することである。その上で、②異なる文化・価値観をもつ他者と、共生するためには何が大切なのかを考えたい。</p> <p>具体的には、異なる文化を持つ者の「生の声」をなるべく聞くため、毎回ドキュメンタリー番組等の映像資料を用いる。「異文化理解」とは何かを考えるため、発表を2回（個人・グループ）行う（なお、授業計画の⑤～⑫の半分の時間は個人発表にあてる。）</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：日本の中の異文化(1)ある小学校では…</p> <p>第3回：移民と難民</p> <p>第4回：日本の中の異文化(2)ある朝鮮学校では…</p> <p>第5回：アイヌ・沖縄</p> <p>第6回：カナダの多文化主義の教育</p> <p>第7回：トルコ</p> <p>第8回：ジェンダー今昔</p> <p>第9回：日本の性的少数者(1)性同一性障害</p> <p>第10回：日本の性的少数者(2)ダブルマイノリティ</p> <p>第11回：日本以外の国・地域の性的少数者</p> <p>第12回：外国における女性の立場と問題</p> <p>第13回：グループ発表①</p> <p>第14回：グループ発表②</p> <p>第15回：グループ発表③</p>						
成績評価 方法	発表(2回分で50%)、毎回の感想(=出席、30%)、レポート(20%)で評価する。						
教科書 参考文献	テキストは使用しない。参考文献等は、その都度紹介する。						
履修の条件							
備考							



科目区分： 教養教育群 人間と文化・社会

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60580	国際関係論	2	堀田 学	選択	3・4	後期	講義
授業目的	<p>現代の国際社会は、ボーダレス化が進み、ヒトやモノ・マネーが行き交うものとなっています。冷戦崩壊後は、国民国家の地位が相対的に低くなると同時に、NGO といった非政府組織などの存在感も高まってきています。</p> <p>また、グローバル化が進行し、言語・文化がひとつのものに収斂するような側面がありますが、他方で反グローバル化の動きや宗教や民族を背景とする紛争やテロも起こっています。</p> <p>本講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起きていることを理解し、考察できるようになることをめざします。</p>						
授業計画	<p>第1回： 国際関係論とは何か</p> <p>第2回： 国際関係学における諸理論 1</p> <p>第3回： 国際関係学における諸理論 2</p> <p>第4回： 国際組織 1</p> <p>第5回： 国際組織 2</p> <p>第6回： 国際社会の生成と発展</p> <p>第7回： 冷戦と冷戦後の世界</p> <p>第8回： 冷戦後の日本外交と国際社会</p> <p>第9回： 地域紛争・民族紛争</p> <p>第10回： 食糧問題・環境問題</p> <p>第11回： 安全保障</p> <p>第12回： グローバル化</p> <p>第13回： 国際社会とNGO・NPO</p> <p>第14回： 地域統合と日本</p> <p>第15回： 寛容な社会へ</p>						
成績評価 方法	期末試験（100％）						
教科書 参考文献	初回に指示します。						
履修の条件							
備考							

科目区分： 教養教育群 人間と自然

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60610	生命科学	2	高橋 和昭	必修	1	前期	講義
授業目的	<p>社会との関わりの中での生命科学とは何かを理解する。具体的には①生命科学の基本知識としてのゲノム・遺伝子・DNA とその後天的修飾を理解するとともに、細胞の増殖分化の仕組みを知る。②ES細胞、iPS細胞など再生医療にかかわる最新事項についても学ぶ。③がんや感染と免疫などヒトの健康にかかわる事項についても理解する。④生命倫理、生命操作技術と人間社会との関わり、生物多様性がヒトや人間社会に及ぼす生命科学研究の影響を理解する。</p>						
授業計画	<p>第1回：生命科学とはどのような学問か            第2回：細胞構造と細胞を構成する高分子            第3回：ゲノム・遺伝子・DNA その1            第4回：ゲノム・遺伝子・DNA その2            第5回：ゲノムの後天的修飾（エピゲノム）と栄養            第6回：発生・分化・増殖 そのI            第7回：発生・分化・増殖 その2            第8回：脳と神経            第9回：食と健康 肥満            第10回：食と健康 アレルギー            第11回：感染と免疫            第12回：遺伝子操作技術と生命 その1            第13回：遺伝子操作技術と生命 その2            第14回：生命倫理            第15回：生物多様性と生命科学</p>						
成績評価 方法	テスト 50%、レポート 50%						
教科書 参考文献	<p>適宜、プリントを渡します。            参考書：東京大学生命科学教科書編集委員会編「理系総合のための生命科学 第3版」（羊土社）3,800円</p>						
履修の条件							
備考							

科目区分： 教養教育群 人間と自然

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60620	自然科学 I (化学)	2	大益 史弘	選択	1・2	前期	講義
授業目的	自然科学の一分野である化学は日常生活に非常に関わりの深い学問である。ここでは、ミクロな世界からマクロな世界に至る物質の世界を軸に段階的に学習する。まずは原子、分子、電子レベルの世界を学習し、物質の構造・性質について理解し、その上で物質同士の相互作用に関わる化学結合、化学変化（化学反応）のメカニズムについて学ぶ。さらに、様々な機能を有する有機化合物を主に取り上げ、その構造、反応、多様性について学ぶ。						
授業計画	第1回：物質の構成要素と原子の構造 第2回：元素の周期律と物質量 第3回：化学結合 第4回：液体と溶液の濃度 第5回：気体 第6回：化学反応と化学平衡 第7回：化学熱力学 第8回：酸・塩基と中和 第9回：酸化還元反応 第10回：有機化学 1 第11回：有機化学 2 第12回：高分子化合物 1 第13回：高分子化合物 2 第14回：環境と化学 1 第15回：環境と化学 2						
成績評価 方 法	テスト 80%、授業への参加度 20%						
教科書 参考文献	田島眞編著「基礎からのやさしい化学-ヒトの健康と栄養を学ぶために-」（建帛社）2,300円＋税						
履修の条件							
備 考							

科目区分： 教養教育群 人間と自然

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60630	自然科学Ⅱ (生物学)	2	鈴木 一憲	選択	1・2	前期	講義
授業目的	<p>生物学は生物とその存在様式を研究対象とする自然科学の一分野である。対象としているものは微生物、植物、動物のすべての多様な生命体であり、その形態・機能・発生・成長・進化・分布・分類などが研究されている。また、基礎科学・純粋科学であることに加え、応用対象により医学、農学など人間社会に役立つ応用科学も含まれる。さらに、境界領域との学問融合や研究技術の進歩で分子生物学、生物物理学、そして細胞生物学が確立されてきて、これらは生命科学と称されている。本講義では基礎科学としての生物学を俯瞰し、今日的人間社会との関わりについて論じたい。</p>						
授業計画	<p>第1回：生物学とは、地球の歴史と生命の誕生 生物の分類            第2回：微生物の世界 地球に与えた影響            第3回：植物の分類と形態（作物や身近な植物を含む）            第4回：植物の生態と遷移（化石燃料、生態系の破壊と問題を含む）            第5回：脊椎動物の進化と分類 1. 魚類、両生類            第6回：脊椎動物の進化と分類 2. 爬虫類（恐竜を含む）、鳥類            第7回：脊椎動物の進化と分類 3. 哺乳類（霊長類と人間を含む）            第8回：現生人類の特徴            第9回：人間の発生と成長            第10回：動物の食、人間の食            第11回：脳の進化と機能            第12回：野生動物の保護と被害            第13回：家畜動物、コンパニオンアニマル、実験動物と人間            第14回：生物学の今日的话题            第15回：生物学の今日的话题</p>						
成績評価 方法	テストと小レポート 100%						
教科書 参考文献	特になし						
履修の条件							
備考							

科目区分： 教養教育群 人間と自然

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60640	自然科学演習	1	大益 史弘	選択	1	前期	演習
授業目的	<p>主に化学を背景とした演習によって自然現象を理解し、創造力を育成する。まず、化学および生物学の内容をよく理解した上で、さらなる基本的知識と応用力を習得しながら、予測した結果を得て考察する自然科学を探究するためのプロセスの一部を経験する。実際に我々の身の回りで日常的に起こっている自然現象を中心に提起し、それらの出来事を自然科学的に捉え、さらには説明することができることを目標とする。</p>						
授業計画	<p>第1回：物質の三態演習 1            第2回：物質の三態演習 2            第3回：物質の三態演習 3            第4回：化学反応・化学平衡演習 1            第5回：化学反応・化学平衡演習 2            第6回：化学反応・化学平衡演習 3            第7回：酸化還元反応演習 1            第8回：酸化還元反応演習 2            第9回：酸化還元反応演習 3            第10回：高分子化合物演習 1            第11回：高分子化合物演習 2            第12回：高分子化合物演習 3            第13回：環境化学演習 1            第14回：環境化学演習 2            第15回：環境化学演習 3</p>						
成績評価 方法	テスト 80%、授業への参加度 20%						
教科書 参考文献	田島眞編著「基礎からのやさしい化学-ヒトの健康と栄養を学ぶために-」（建帛社）2,300円＋税						
履修の条件							
備考							

科目区分： 教養教育群 人間と自然

科目コード	授業科目名	単位	担当教員	必修 選択	学年	開講 時期	授業 形態
60650	統計学	2	鈴木 久美	選択	1	後期	講義
授業目的	本講義では、定量的な分析の基礎となる統計理論を学習し、記述統計および推測統計の両方を利用できる能力を養うことを目的とする。						
授業計画	第1回：ガイダンス・統計学の基礎 第2回：1次元のデータ 第3回：2次元のデータ 第4回：確率 第5回：確率変数 第6回：確率分布（正規分布）・標本分布 第7回：母集団と標本 第8回：区間推定①母分散が既知の場合 第9回：区間推定②母分散が未知の場合 第10回：仮説検定①検定の考え方 第11回：仮説検定②母平均に関する検定 第12回：仮説検定③母分散に関する検定 第13回：仮説検定④母平均の差の検定・母分散の比の検定 第14回：仮説検定⑤適合度の検定 第15回：分割表と独立性の検定						
成績評価 方法	テスト 100%						
教科書 参考文献	教科書：初回講義で指定する。 参考文献：東京大学教養学部統計学教室編[1991年]『統計学入門』 東京大学出版会						
履修の条件							
備考	1回目の講義には必ず参加すること。 電卓を利用します。						